

（件名）タイの観光産業を襲った新型コロナの現実

実録!? タイの現実世界

タイ人への直接インタビューを交え
タイの現実に迫ります。

タイにおけるリゾート地として有名なプーケット島。パタヤビーチと並んで、誰もが一度は聞いたことがある地名ではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中の観光産業に大きな打撃を与えました。このプーケットも例外なく大きなダメージを受け、タイ政府は「プーケットモデル」と称し、プーケット限定で外国人観光客の受け入れを試みましたがまだ実現には至っていません。観光が主産業のプーケットの今を取材し、観光産業の未来について考えます。

1 人影もない閑散とした街並み

プーケットはバンコクから飛行機で1時間25分と千歳から東京へ向かうよりも近い距離にあり、透き通った海と空におしゃれなカフェやバーが並ぶ街並みが売りの南国のリゾート地です。

現地に着いてみると人影はまばらと言うよりも、いないに等しいほど少なく、お店の看板はどれも点灯していなく、ほとんどが閉業していました。

24時間営業をうたったコンビニエンスストアは看板だけが悲しく残り、マクドナルド等のチェーン展開しているお店は一つ残らず営業していません。報道によれば今年の観光収入はプーケット県だけで約6,900億円以上の減収とのことです。

2 窮地に立たされているホテル業界

今回、宿泊したホテルは、どれもコロナ前の3分の1から5分の1の価格で、ビジネスホテルとリゾートホテルは3千円代、コテージは通常8万円以上するところ1万5千円で宿泊出来ました。

オンライン旅行会社経由で予約したホテルが、現地に行くと閉業しており、急遽別のホテルを手配しなければいけない事態にも見舞われ、どのホテルも明日営業出来るかわからないとの声を多く聞きました。観光協会によればホテルの稼働率は10%とのことです。



人も車もないパトンビーチ



コンビニはどちらも閉店



報告者：副所長 小林 涼太郎

3 それでも前を向くプーケットの観光産業

旅の途中で利用したタクシー運転手からこんな話を聞ききました。

「コロナ前は平均して1日3,000バーツ（約1万円）稼げるとも良いビジネスだったんだ。それがコロナになって平日は客がゼロ、この連休はプーケットマラソンがあるから人がいるけど、それでも朝乗せた欧米人と君だけでまた明日から地獄の日々だよ。バンコクの大学に通わせている娘への仕送りと家賃の払いで自分の生活費はない。」「プーケットは良い場所だろう。透き通った海はいつまでも変わらない。我慢すればまた観光客が戻るさ。来年、いや再来年かな。」そういつて、財布に残っていた200バーツ（約700円）を握りガソリンを入れる後ろ姿には生きる強さを感じました。

かつて外国人観光客で賑わっていたプーケットは、国内観光客向けにサービスや価格帯を変更し、生き残りを図っています。ホテルや交通手段、離島ツアー等はコロナ前のチラシやHPに載っている価格のおよそ3分の1に値下げされ、タイ人富裕層や中間層を集めていました。しかし、こういった取組はビジネスにおける固定費の多くを占める人件費が安いことや、生きるために必要な食糧の自給率が高く、食品の価格が安いタイだから出来ることです。先進国においては、事業の多角化や観光に依存しない地域づくりに取り組む必要があると感じた一方で、自然等の観光資源の魅力は将来にわたって変わらない武器になると確信しました。



旅の途中には、大手財閥一族の女性や、札幌・東京・大阪に不動産を所有する富裕層、訪日経験7回の女性と知り合いました。

皆口を揃えて、日本に早く旅行したいと言っており、うち2人はSNSアカウントのプロフィール画面が北海道のスキー場でスキーをしている姿であり、みなさんとコロナ後に北海道で再会することを誓いました。

■筆者の所見■

- タイは世界的な観光地である一方、輸出産業や先進的な技術の取り込みにも力を入れており、既に月別の実績が前年比同程度まで回復している産業もあります。政府は観光産業を支援しつつも産業の転換を図っていることが政策から見えます。外的要因に弱いとされる観光産業に過度に依存することなく、バランスの良い産業構造を構築していくことが必要です。
- 一方で、自然環境による観光資源は将来に渡って人を呼び寄せる大きな武器であるため、平時にいかに稼ぎを貯めておくことが出来る産業にするか、有事の際に収入を代替できる事業を平時から育てていけるかという視点で観光産業を一層発展させていくことが必要と考えます。
- 街は賑わってこそ元気があって楽しく、さらに人を呼び寄せます。人がいないリゾート地は、思っていた以上に楽しめるものではありませんでした。透き通った海が目の前にあっても何時間そこにいられますか？観光公害という言葉が出るほど日本のインバウンドは増えましたが、賑わっていたからこそ人が集まる環境が整っていたという視点も忘れてはいけません。